

2024 年度 10 月入学・2025 年度 4 月入学
東京農工大学大学院工学府博士後期課程（博士）学生募集要項
請求方法について

【直接取りに来られる場合】

小金井地区事務部学生支援室入学試験係（管理棟 1F）の窓口カウンター前にて配布中です。ご自由にお持ちください。（土日、祝日を除く 8：30～17：15）

【郵送で請求する場合】

募集要項の郵送を希望される方は、返信用封筒（角形 2 号・A4 サイズ）に切手（普通便 250 円・速達便 510 円）を貼って、下記住所までご請求ください。

なお、請求の際は、宛名の横に「工学府博士前期課程募集要項請求」と朱書きしてください。発送までに時間を要する場合があります。郵送で請求する場合、出願期間までに十分な余裕を持って請求してください。

【ご請求及びお問い合わせ先】

〒184-8588

東京都小金井市中町 2-24-16 管理棟 1F

東京農工大学小金井地区事務部学生支援室入学試験係

電話 042-388-7014（土日・祝日を除く 8:30～12:00, 13:00～17:15）

E-MAIL tnyushi@cc.tuat.ac.jp

2024年度10月入学

2025年度4月入学

東京農工大学大学院工学府

博士後期課程（博士）

学生募集要項

東京農工大学大学院工学府

重 要

本要項に記載した情報は令和6年(2024年)4月時点の内容です。

本要項の公開後であっても、選抜方法や日程等に変更が生じる可能性があります。

出願にあたっては、必ず本学ホームページにて最新の情報を確認してください。

【本学ホームページ「重要なお知らせ」URL 及び QR コード】

https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/info/



2024年度10月・2025年度4月入学

東京農工大学大学院工学府 博士後期課程 学生募集要項

- ① 大学院工学府は博士前期課程、博士後期課程、専門職学位課程からなり、この募集要項は博士後期課程についてのものである。
- ② 博士後期課程（博士課程）を構成する専攻のうち、共同サステナビリティ研究専攻は、東京農工大学・東京外国語大学・電気通信大学の三大学による共同教育課程である。共同サステナビリティ研究専攻を志望する者は、共同サステナビリティ研究専攻学生募集要項（別冊）を参照すること。
- ③ 各専攻に国際専修（英語修了コース）を設置している。国際専修を志願する者は、P9「4. 国際専修」の記載を読むこと。

1. 募集人員

専攻名	募集人員			
	2024年 10月入学	2025年4月入学		
		第1期入試	第2期入試	第3期入試
生命工学専攻	若干名	14名	若干名	若干名
生体医用システム工学専攻	若干名	5名	若干名	若干名
応用化学専攻	若干名	10名	若干名	若干名
化学物理工学専攻	若干名	6名	若干名	若干名
機械システム工学専攻	若干名	14名	若干名	若干名
知能情報システム工学専攻	若干名	10名	若干名	若干名
共同サステナビリティ研究専攻※	若干名	4名	若干名	若干名
計	若干名	63名	若干名	若干名

※共同サステナビリティ研究専攻については共同サステナビリティ研究専攻学生募集要項（別冊）を参照。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び入学する月の前までに修士の学位又は専門職学位を取得見込の者。
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに取得見込の者。
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに取得見込の者。
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の教育制度において位置付けられた学校教育施設にあって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者。
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに取得見込の者。
- (6) 外国の学校、出願資格(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当する審査に合格又は合格見込みで、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。
(博士論文研究基礎力審査)
 - 1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専門科目分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期の課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験
 - 2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期の課程において修得すべきものについての審査
- (7) 文部科学大臣の指定した者。

文部科学大臣の指定した者とは、「大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。」
- (8) 個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学する月の1日現在24歳に達した者。

*出願資格(7)(8)により出願する者に対しては、出願に先だてて事前審査を行う。〔出願資格(7)(8)の認定について〕参照のこと

3. 選抜日程等

	2024年10月入学	2025年4月入学		
		第1期入試	第2期入試	第3期入試
※出願資格審査申請	2024年6月10日(月) ～6月14日(金)	2024年6月10日(月) ～6月14日(金)	2024年11月13日(水) ～11月15日(金)	2025年1月30日(木) ～1月31日(金)
※出願資格審査	2024年6月26日(水)	2024年6月26日(水)	2024年11月25日(月)	2025年2月7日(金)
※出願資格審査 結果通知	2024年7月1日(月)	2024年7月1日(月)	2024年11月27日(水)	2025年2月12日(水)
出願期間	2024年7月9日(火) ～7月12日(金)	2024年7月9日(火) ～7月12日(金)	2024年12月2日(月) ～12月6日(金)	2025年2月26日(水) ～2月28日(金)
入学試験	2024年8月19日(月)	2024年8月19日(月)	2024年12月12日(木)	2025年3月6日(木)
合格発表	2024年9月6日(金) 午後1時30分	2024年9月6日(金) 午後1時30分	2025年1月14日(火) 午後1時30分	2025年3月21日(金) 午後1時30分
入学手続き日	2024年9月13日(金)	2025年3月14日(金)	2025年3月14日(金)	2025年3月25日(火)

※出願資格(7)(8)の者のみ対象

4. 出願期間

「3. 選抜日程等」参照(窓口受付時間: 9:00～12:00、13:00～17:00 ※土日・祝日は除く)
郵送にて出願する場合期日必着とする。

5. 出願手続

出願しようとする者は「6. 選抜方法」の項を参照し、所定の出願書類等を出願期間中に入学試験係まで持参又は郵送すること。

出願書類提出先及び問い合わせ先 東京農工大学小金井地区事務部学生支援室入学試験係
〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16
TEL 042-388-7014

6. 選抜方法

選抜は学力試験及び書類審査を総合して行う。

(1) 書類審査

出願に必要な書類の一覧は下表の通り。

(2) 学力試験

提出された修士論文の概要、研究計画書などを参考にして関連する専門分野についての試験及び語学の試験を行う。(語学の試験は、英語を公用語とする国・地域の大学で学士号・修士号を取得および取得見込みの者を除く。)

出 願 書 類		注 意 事 項
A	入 学 志 願 票 (所定用紙)	「希望する研究題目」を記入するに当たっては、志望する指導教員の指導を必ず受け、「志望する指導教員」欄に承認印を得ておくこと。 なお、本要項(p.9～24)で※1の教員の指導を希望する場合は事前に各教員と相談すること。本要項に記載が無い教員名を志望する指導教員欄に記入することはできない。
B	写 真 票 ・ 受 験 票 (所定用紙)	写真票には、出願以前3カ月以内に撮影した脱帽上半身の写真(縦4cm×横3cm)を貼付すること。

C	修了（見込）証明書	出身大学院が作成した博士前期課程又は修士課程修了（見込）証明書を提出すること。本学府修了（見込）の者も提出すること。出願資格（6）に該当する者は、博士論文研究基礎力審査に相当する審査に係る確認資料を提出すること。ただし、出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。
D	大学院成績証明書	出身大学院が作成したもの。本学府に在学する者も提出すること。ただし、出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。
E	修士論文の概要 （所定用紙）	博士前期課程修了者又は修士課程修了者は、修士論文の内容を日本語で2,000字（英語の場合は500単語）以内に要約した概要を提出すること。なお、修士論文に関連した刊行論文等の別刷又はその写しがある場合は添付すること。ただし、本学の博士前期課程又は修士課程に在学中の者及び出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。
F	研究計画の概要 （所定用紙）	博士後期課程における研究計画の概要を、2,000字以内にまとめること。なお、作成に当たっては、必ず志望する指導教員の確認を得ておくこと。
G	志望理由書 （所定用紙）	修士論文題目もしくは現在行っている（行いたい）研究の概略と志望理由を明記したもの。（本学出身者、本学研究生又は本学在学学生及び出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。）
H	返信用封筒	郵送による出願者のみ提出すること。 長形3号の封筒に344円分の切手を貼付し、受験票等の送付先住所・氏名及び郵便番号を記載すること。
I	住民票 （外国人志願者のみ提出）	外国人は、住民票の写し（国籍等、在留資格、在留期間及び在留期間の満了の日が記載されたもの）を提出すること。 又、文部科学省国費外国人留学生は、在籍する大学の発行する国費外国人留学生証明書を提出すること。（但し、本学に在籍中の国費留学生は国費外国人留学生証明書の提出は不要）
J	入学検定料 （本学所定の入学検定料払込用紙により払込）	30,000円 本学所定の入学検定料払込用紙により郵便局・ゆうちょ銀行で払込のうえ、受付局日附印を押した「振替払込受付証明書」を受け取り、「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付けること。なお、「振替払込請求書兼受領証」をもって本学の受領証書とするので、大切に保管のこと。 ※「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認するので、入学検定料の納付は郵便局・ゆうちょ銀行の受付窓口での払込に限る。（ATMは使用不可） ただし、本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後の国費奨学金支給延長が決定している外国人留学生は納入不要。
K	宛名票 （所定用紙）	必要事項を記入すること。提出後、住所等の変更があった場合には速やかに小金井地区事務部学生支援室入学試験係まで連絡すること。

7. 試験の期日及び場所

- (1) 期 日：「3. 選抜日程等」参照
- (2) 場 所：東京農工大学小金井キャンパス
なお、試験会場等の詳細については、志願者に別途通知する。

8. 合格発表

「3. 選抜日程等」に記載されている日時から3日間、合格者の受験番号を本学ホームページ上で掲示する。合格者には、同日合格通知書を郵送する。

9. 入学手続

- (1) 入学手続期日
期日：「3. 選抜日程等」参照
入学手続の詳細は合格者に別途通知する。
 - (2) 入学に要する費用等
 - ① 入学料……282,000円
ただし、本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要。
 - ② 授業料……2024年10月入学者：535,800円（前期分267,900円、後期分267,900円）
2025年4月入学者：642,960円（前期分321,480円、後期分321,480円）
入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要。
- 注）授業料の納入については、入学後の納入とする。
入学料および授業料は改定される場合がある。
在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される場合がある。
- ③ その他必要書類……入学承諾書（本学所定用紙）
在職のまま入学を希望する者は所属長等による入学承諾書を提出すること。
 - ④ 入学時には、本学指定の学生教育研究災害傷害保険料等の諸経費が必要となる。

10. 社会人学生

本課程の標準修業年限は3年だが、社会人が学びやすい環境を整備するため、標準修業年限の2倍の年数を超えない範囲で、長期にわたり計画的な履修を可能とする長期履修制度が利用できる。

11. 注意事項

- (1) 出願するに当たっては、志望する指導教員に連絡し、承認を得ておくこと。
- (2) 志願票に志望する指導教員の捺印（承認印）がない場合は、出願できない。
- (3) 学力試験の際には、必ず受験票を携帯しておくこと。
- (4) 出願手続後における提出書類の内容変更は認めない。
- (5) 本要項及び大学から指示する諸事項を守らない場合は、受験できない場合がある。
- (6) 入学試験に関する照会はP.2に記載の「出願書類提出先及び問い合わせ先」で受付ける。
- (7) 納入された検定料は、いかなる理由があっても払い戻さない。
- (8) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに志願者に通知する。
- (9) 入学後、本人の申込みに伴い、入学料・授業料免除および奨学金団体の制度によっては、出願時の成績証明書および入学試験の成績を使用することがある。出願時に取得した個人情報に関しては、国立大学法人東京農工大学個人情報の保護に関する規程に則り、適切に取扱う。
- (10) 試験当日の交通機関の遅れについては、原則としてJR中央線のみを考慮する。
- (11) 試験前日または当日に災害等が発生し、試験の実施に大きな問題が生じた場合は、以下のウェブサイトに対応を掲載する。
東京農工大学トップページ>ニュース
<https://www.tuat.ac.jp/NEWS>
- (12) 障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）等のある者で、受験上および修学上の配慮を必要とする者は、志望指導教員および入学試験係に出願前のできるだけ早い時期に相談すること。申請内容によっては、試験日までに対応できず、配慮できないこともあるので、なるべく早く申し出ること。
- (13) 本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人東京農工大学安全保障輸出管理規程」を定め、学生の受入れに際し厳格な審査を行っている。規制事項に該当する場合には、本学から経済産業省への許可申請が必要となり、すぐに教育が受けられない場合や研究ができない場合がある。また、本学からの許可申請について、経済産業省が国際平和・安全の維持の観点から不許可とした場合、結果的に本学での教育が受けられない場合や研究ができない場合がある。

出願資格(7)(8)の認定について

出願資格の認定とは、博士後期課程への出願資格の有無を判定するためのものであり、下記のとおり実施する。

1. 申請書類受付

受付日……………「3. 選抜日程等」参照

受付時間…………… 9:00～12:00、13:00～17:00 ※土日・祝日は除く

受付場所……………東京農工大学小金井地区事務部学生支援室入学試験係（小金井キャンパス管理棟1階）

2. 提出書類等

- (1) 出願資格認定申請書（所定用紙）
- (2) 最終出身学校の卒業証明書（出身学校が作成したもの）
- (3) 最終出身学校の成績証明書（出身学校が作成したもの）
- (4) 研究業績一覧（所定用紙）及び刊行論文等の別刷又はその写し
- (5) 在職（在籍）証明書〔様式随意（出願資格(7)(8)の者で、勤務経歴のない者については提出を要しない。）〕
- (6) 志望理由書（所定用紙）

3. 認定試問

認定試問日については「3. 選抜日程等」参照。集合場所、時刻等については出願資格認定の申請手続きの際に連絡する。

4. 認定結果

出願資格審査結果通知日については「3. 選抜日程等」参照（郵送にて通知）

5. 出願手続き

出願資格の認定を受けた者は、2, 3ページの4, 5, 6の項により出願手続きを行うこと。

所在地

工学府

〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16

☎ 042-388-7014

東京農工大学大学院工学府案内図

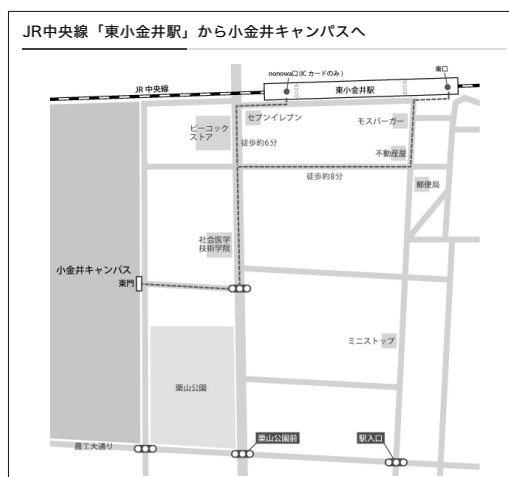


◎交通機関

小金井キャンパス

JR 中央線 東小金井駅 (新宿から約 22 分、立川から約 12 分)

nonowa 口から徒歩約 6 分、南口から徒歩約 8 分



東京農工大学大学院工学府

東京農工大学大学院工学府博士後期課程案内

1. 学びの目的

工学府は、自然環境と科学技術に関心を持ち、常に自己を啓発し、広い知識と視野を持ち、高い自主性と倫理性に支えられた実行力を有し、国際社会で活躍できる技術者・研究者を目指す学生を国内外から広く受け入れる。最近の科学技術の発展は目覚ましいものがあり、技術・情報が高度化、先端化すると同時に種々の専門分野に関連する境界領域や総合領域における発展も著しい。工学府は、このような時代の要請に対応する科学と工学の基礎学問から先端応用技術に至る広範囲の研究教育を教授し、幅広い学識と高度の研究能力を有する独創性豊かな研究者、技術者を養成を目標とする。

2. アドミッションポリシー

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、工学府は、以下のような人材を求める。

- ①幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②大自然の真理に対する探求心とモノ作りマインドを持ち、理工学分野の科学技術に関心があり、研究を通じて主体的に考え、他人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

生命工学専攻

国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせ、最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ、専門家として社会の中核で活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①生命工学分野の最先端の研究に取り組むための化学・生命科学・工学に関する高度な専門知識と学力を持ち、分野を先導する研究者に不可欠な俯瞰的な視点と高い倫理性を身につけた者。
- ②生命工学分野の最先端の研究に対する探求心を持ち、学際的かつ国際的に協力・協働して、社会的に貢献したいという強い意志を持つ者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、生命工学分野の最先端の専門知識や高度な解析能力・洞察力に基づいて主体的かつ論理的に研究課題を設定し、技術革新や未踏の技術の立案・独創的な先端研究に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④研究成果を国際的に発信するために必要な優れた語学力と高いコミュニケーション能力を有する者。

生体医用システム工学専攻

現代医療の根幹を支える生体医用工学の先端技術および関連する専門知識を修得させるとともに、異分野の専門家との協働を通じて、バイオメディカルイノベーションプロセスに基づいた実践的な研究開発能力を有し、多種多様な産業分野のシーズを医療・ヘルスケア機器開発に橋渡しできる、高度で知的な素養を備えた、国際社会でリーダーとして活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①生体医用工学分野を学ぶための幅広い視野と十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②自然科学に対する探求心とモノ作りマインドを持ち、生体医用工学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて主体的に考え、専門分野の境界を越えた複数の研究者、技術者、専門家等と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
- ③人類が直面する健康・医療・衛生等の諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、新しい研究領域や医療・ヘルスケア技術開発につながる研究に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

応用化学専攻

自然・生命・環境・エネルギー等の分野に関連する化学者・材料科学者として、高度専門的な科学技術の発展を国際的に先導し、安全安心な持続型社会の形成に貢献する研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①化学および物理分野や関連分野の体系的かつ豊かな基礎学力を有し、研究者や技術者に必要な倫理観を有する者。
- ②化学物質に対して、原子・分子レベルの視点から新しい価値を創出し、その分野の世界トップレベルの専門家として社会的・国際的に貢献する意欲と積極性に富んだ者。
- ③自然・生命・環境・エネルギー等の分野に関連する化学・材料科学分野において、学術的・産業的な観点から自ら研究課題を設定し、豊かな知識を総合して主体的に研究に取り組むことで、未踏の学理の追究、新しい研究領域や科学技術の開拓に果敢に挑戦する意欲を有する者。
- ④日本語または英語での優れたコミュニケーション能力を有し、世界に向けて研究成果の発信ができる者。

化学物理工学専攻

化学工学と物理工学を統合的に理解することで、エネルギー、環境、新素材等に関連する諸問題を解決する能力と、解決過程において先導的役割を果たす高度専門的指導力とを有し、持続型社会の形成に貢献し社会的・国際的に活躍する研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①化学・物理・数学・英語等、化学工学・物理工学分野を学ぶための十分な基礎学力と修士レベルの研究能力を持つとともに、幅広い視野と高い倫理観を身につけた者。
- ②エネルギー・地球環境・医薬/食品・素材/材料、あるいはそれらの課題解決の基盤となるプロセス技術・計測技術等に関連する化学工学・物理工学分野の研究に関心と研究実績があり、これらの1つ以上の分野での世界最先端の研究活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、化学工学・物理工学の統合的理解と活用によって多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題の解決に向けて一人の自立した研究者として果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有し、口頭および文章で研究の議論を行うことができる者。

機械システム工学専攻

数学・物理学の高い基盤的解析能力と機械システム工学の幅広く深い専門知識に基づいて、環境と調和して持続発展可能な科学技術立脚社会をグローバルスケールで実現するためのUnique & Bestな先端的機械システムを設計・創造し、世界の社会・文化に関する深い理解・洞察と豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる研究者・技術者の養成を目標とする。このために、次のような人材を求める。

- ①機械システム工学の最先端の研究に取り組む高い学問的応用能力があり、専門分野での国際的活動を通じて人類・社会に貢献したいという強い意志を持つ者。
- ②数学・物理学ならびに機械システム工学分野において高度な解析能力・専門知識・洞察力に基づいて問題を発見・解決する能力を有するとともに、新しい研究領域や融合的領域における研究課題に対応できる柔軟な思考力を持つ者。
- ③機械システム工学の各専門分野において、自ら開発目標を発見し、実験・解析のルーティンを具現化し、考察・議論を展開できるような知的好奇心と洞察力を身につけている者。
- ④研究成果を国際的に発信するために必要な語学力および科学技術の多様化を担える適応能力を持つ者。

知能情報システム工学専攻

現代社会の根幹を支える知能情報システム工学の先導的な学識を教授し、自立した研究者に相応しい課題発掘能力、実践的研究能力、技術開発の展開能力、国際性と情報発信能力、社会ニーズに対する柔軟性を滋養して、実践的な研究開発能力を有する研究者・技術者の養成を目標とする。よって、次のような人材を求める。

- ①幅広い視野と知能情報システム工学を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②知能情報システム工学の分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意識が高い者。
- ③人類が直面している諸課題に対して、知能情報システム工学に関する基礎知識に基づいて多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

3. 主な教育研究上の特色

- ①学術領域の教育研究分野に対応するため、学問の普遍的体系に基づいた大専攻による強力な指導体制で教育研究を行う。博士論文の研究指導は学際領域の研究にも対応できるように、複数指導体制をとる。
- ②従来の高度であるが非常に狭い専門の教育研究による弊害を除去するため、博士論文のテーマと異なる研究テーマについて文献調査研究を行わせ、幅広い知識を修得させ、また柔軟な思考力を育成する。
- ③授業では、各教員が実際に研究を行っている分野についての内容を中心として教授する。
- ④修士の学位を有する社会人だけでなく、学部卒業後2年以上の社会人も積極的に受け入れる。

4. 国際専修

各専攻に国際専修（英語修了コース）を設置している。国際専修への入学者は講義等が全て英語となる。本募集要項に記載の全教員は国際専修に所属している。各専攻における国際専修の募集人員は若干名でP1「1. 募集人員」の内に含まれる。出願資格、選抜日程、出願期間、出願手続、選抜方法、合格発表、入学手続、注意事項等は本募集要項P1～4と同様となる。

5. 所属教員の主な研究内容

※1の教員については、2ページの「6. 選抜方法出願書類等一覧 A入学志願票」欄を参照のこと。

生命工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
細胞機能工学	斉藤美佳子	幹細胞工学、単一細胞機能の分子制御（遺伝子、サイトカイン、エクソソームなど）、複合疾患モデルの創製（糖尿病予備群モデルマウス、がん転移モデル細胞など）、複合疾患の発症機構解析、疾患予防の細胞医薬の開発、レギュラトリーサイエンス、実験動物健康モニタリング、に関する研究を行う。
	モリテツシ	新規・未同定環境微生物の有効利用および生態・役割・遺伝的バックグラウンドの理解を目指し、分子生物的手法を基盤とした技術開発研究を行う。
生命分子情報科学	黒田裕 *2027.3退職予定	種々分光光学法、X線結晶構造解析法、NMR法、計算機シミュレーションを融合的に用いて、タンパク質を可溶化、又はその機能を改変する研究。可溶化や機能改変による生物学的影響の検証。
システムバイオロジー	津川裕司	当研究室では、植物とヒトとの繋がりを紐解くオミクス解析の技術開発を通じて、自然界で創生される100万種を超える化合物が、ヒトおよび腸内細菌叢でどのように代謝され、どのような生体分子に作用し、我々の生体恒常性維持に寄与しているかを解明する研究を行います。
生体分子構造学	中澤靖元	シルクフィブロイン等の天然高分子を用いた新規な組織工学材料を創製する。天然高分子の機能化および高次構造制御による微細構造-物性-機能性の相関関係を明確化するとともに、医工連携により、組織再生型の心臓修復用パッチや動脈グラフト、創傷被覆材、心臓弁、軟骨等の次世代医療機器への応用を図る
	野口恵一 （協力教員） ※1	X線回折法、核磁気共鳴分光法、質量分析法、電子顕微鏡観察などの各種先端機器分析法などを用いて、生体関連低分子化合物や生体高分子の立体構造とその物性の相関について研究している。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
細胞分子工学	太田善浩	ミトコンドリアが関与する生命現象（プログラム細胞死、活性酸素発生、エネルギー代謝など）の理解、及びミトコンドリアに関連する創薬の推進を目指し、イメージングを中心とした計測技術の開発及びメカニズムの解明を行う。
	稲田全規 （協力教員） ※共同大学院で受け入れ	遺伝子改変技術を駆使した分子細胞生物学的なアプローチにより、コラーゲンの産生と分解に関連する多彩な生体现象を解析する。特に遺伝子欠損マウスを用い、関連疾患の発症機構を病態生化学的に解明する。
	※1 平田美智子	遺伝子編集技術を用いた遺伝子欠損動物の作製とその表現型解析による遺伝子機能の生化学的解析を行なう。特に創薬における実験評価系の構築や画像診断技術の開発に資する研究開発を行う。
ナノ生命工学	池袋一典	蛋白質や核酸を素材とし、進化工学的手法を応用した新規分子認識素子の設計・合成、それらを応用した新規分子検出システムの開発を行う。
	浅野竜太郎	次世代型のタンパク質製剤の開発、およびバイオセンサーへの展開を目指して、抗体を中心とする免疫分子に基づく人工タンパク質のデザインと精密機能解析を進める。
バイオビジネス	津川若子	次世代の医療用検体検査技術のプラットフォーム開発、環境計測・化成品計測用バイオセンシング技術の開発など、新規生命分子・システムを応用したバイオデバイスの開発を進める。
分子生命化学	川野竜司	半導体微細加工 (MEMS) 技術、マイクロ流体技術を用いた人工細胞膜中に膜タンパク質・膜受容体を埋め込んだチップを作製し、創薬・生体模倣型バイオセンサの研究を行う。またチャンネル膜タンパク質の持つナノ孔を利用し、高感度一分子検出システムを構築する。
海洋生命工学	田中剛 （協力教員） ※共同大学院で受け入れ	マリンカルチャーコレクションの構築及びそれを利用したバイオ燃料・医薬品原料などの有用物質生産に関する研究／機械学習やバイオイメージインフォマティクスに基づく病原性微生物検出、医療診断技術開発に関する研究を行う。
生命分子工学	新垣篤史	分子生物学的な手法を用いてバイオミネラル化の機構を解析し、無機物と有機物から構成される新しい物性を持ったナノバイオマテリアルの開発を行う。
	吉野知子	微生物を利用した新規バイオマテリアルの開発、特に分子生物学、タンパク質科学、遺伝子工学を基盤とした高機能性バイオマテリアルの創製とそれらを用いたバイオセンサの開発を行う。
生体電子工学	中村暢文	バイオプロセスに有用なタンパク質の探索と改良、それらのタンパク質を利用した生体システム模倣プロセス、バイオエレクトロニックデバイスの開発を行う。また、イオン液体を用いた発電・蓄電デバイスの開発を行う。
	一川尚広	脂質分子は自己組織的に二分子レイヤーを形成し、様々な生体機能物質の場として機能する。当研究室では、このような両親媒性分子の自己組織化を制御し、様々な周期構造を有する分子集合場を生み出し、これまでにない物質機能場の創成を目指しています。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
生命有機化学	長澤和夫	創薬リードとなる生理活性天然物の全合成、核酸高次構造の安定化を基盤とする創薬研究、グアニジン型有機触媒に関する研究を行う。
	桜井香里	ペプチド、糖鎖や天然物生理活性分子をモチーフとした新規機能性分子を創製する方法論を、有機化学とバイオテクノロジーを組み合わせで開発する。さらに得られる機能性分子をツールとして、生命機構を解明するケミカルバイオロジー研究を行う。
	寺正行	生体高分子（核酸、タンパク質、細胞表層分子）を認識し、化学的な制御を可能とする低分子化合物の設計と合成を行う。合成した化合物を試験管レベル、細胞レベルで機能評価する。
創薬酵素工学	※1 Christopher Vavricka	計算科学を組み合わせた酵素工学はあらゆる有用化合物の持続可能な生合成を可能とする。現存する代謝経路を拡張し、高付加価値の医薬品化合物を生み出すための、特殊な酵素機能の発見や改良に向けて計算科学的にアプローチする。
生命環境工学	養王田正文 *2025.3退職予定	細胞内における蛋白質の一生を司る分子シャペロンの分子構造から機能の解明、バイオレメディエーションによる環境修復に関する微生物とその検出技術の開発、オーダーメイド医療を目指した遺伝子解析技術の開発、蛋白質の高次構造の解析とコンピューターによる動的構造変化の解明を行う。
生物言語学	※1 畠山雄二	理論言語学、統語構造、情報構造。

生体医用システム工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
医用デバイス工学	前橋兼三	疾病の早期発見、安心安全社会の実現のために、複雑な生体システムを科学的に計測・解析するためのナノデバイスの開発を目指す。特に、特異的な微細構造と伝導特性を持つグラフェンおよびカーボンナノチューブに着目し、その製作技術、材料の基礎的な研究および高感度センサ、量子デバイス等の開発を行っている。
3次元画像工学	高木康博	人の立体視機能を矛盾なく満たす立体表示技術としてホログラフィーやライトフィールド表示について研究を行い、VR・AR技術やメタバースで利用される次世代のヘッドマウントディスプレイやメガネなし3Dディスプレイを実現する。また、眼球内に入れて用いるホログラムコンタクトレンズについて研究を行い、これを用いた人間拡張技術の実現を可能にする。
医用超音波工学	榊田晃司	超音波を用いて、身体を傷つけない診断・治療方法の開発を行っている。物理学や電気電子工学の知見である「波動」を医療に応用する。医学系研究者と積極的に連携し、超音波が引き起こす生体作用の検証実験と、画像処理や機械学習を用いた情報抽出といった多方面の研究テーマを進めており、これらの研究成果を融合した治療技術の実現を目指している。
生体医用センシング	生嶋健司	独自の音響・光技術や高度な量子技術を活用し、超音波やテラヘルツ波(ミリ波～赤外光)に関わる革新的なセンシング技術の開発を行っている。従来の技術では捉えることができなかった情報を可視化し、医療診断をはじめ、細胞、食品、産業用素材の検査など、様々な分野への応用を目指す。
生体物理工学	村山能宏	生物物理学、ソフトマター物理学の実験的研究。特に、生体高分子の力学特性やレオロジー特性、微生物の運動機構に着目した生体機能の解明および観測、解析技術の開発を行う。
光波センシング工学	田中洋介	多機能高速光情報処理、高機能光計測システムの構築、要素デバイス、並びにデータ処理技術に関する研究を行うと共に、構造物や生体のヘルスマニタリングへの応用を進めている。
超伝導工学	山本明保	超伝導材料の物質科学・物性科学・応用に関する実験的研究。特に、高温超伝導材料を用いた新しい強力磁石の開発を行う。
生体機能材料	※1 赤木友紀	化学・生物学・材料工学を基盤として、アンメットメディカルニーズに応えるスマートマテリアルの開発を行う。さらに、光や超音波等の物理エネルギーと組み合わせることで、効率・精度に優れた診断および治療の実現を目指している。
複雑系生命工学	※1 岡野太治	細胞に似た特徴を有する人工細胞モデル(脂質二重膜小胞、化学振動素子、アクティブマター)を用いて、生き物らしい振る舞いの発現メカニズムを物理学的観点から調べる。また、マイクロ流体デバイスを活用して、先端の生命科学研究で必要とされる技術の開発も行う。
生体機械工学	吉野大輔	細胞の力学応答機構に関する実験的研究と細胞応答を応用した医療機器の開発研究。特に、循環器系疾患を対象に、血行力学刺激に対する細胞応答機構および疾患の病態メカニズムの解明と循環器医療デバイスの開発を行う。

応用化学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
光電子材料化学	熊谷義直	化合物半導体結晶の気相成長と物性の研究。窒化物半導体、酸化半導体結晶の厚膜高速成長を理論と実験の両面から検討。
電子エネルギー化学	岩間悦郎	高速蓄電デバイスへの展開を目的としたナノ材料研究。ナノ粒子の結晶構造・欠陥・複合形態制御を組み合わせた新規ナノ複合体材料の設計開発とその評価技術構築。蓄電エネルギーと海水資源双方の高効率回収。
分子創成化学	加納太一	有機化学的手法を用いた生物学的等価体の効率的合成法の開発と生物活性物質合成への応用。人工酵素を目指した有機分子触媒の創製と環境調和型の新規反応への応用。
分子設計化学	齊藤 亜紀夫	Lewis 酸あるいは超原子価ヨウ素を用いる効率的な新規有機合成反応の開発（連続的結合形成反応、多成分連続型反応などを中心）とその応用（生理活性物質や機能性材料などの合成）。
分子触媒化学	平野雅文	後周期遷移金属錯体による結合切断および形成反応。配位不飽和有機金属錯体の反応性に関する研究。原子利用効率の高い新しい分子触媒反応の開拓。
	森 啓二	ヒドリド転位を鍵とする炭素-水素結合変換型環化反応の開発。 π - π 相互作用を駆使する分子変換法の開発。
無機固体化学	前田和之	ゼオライト類縁物質や配位高分子等の新規ナノスペース材料の開発、構造解析、応用に関する研究。無機有機ハイブリッドナノシートの創製とナノスペース材料への展開。
キャパシタテクノロジー (寄附講座)	玉光賢 ^{※1}	キャパシタ、リチウムイオン電池、ソフトエネルギーデバイスを対象とした、材料化学、機能設計、デバイス設計。さまざまな分野への応用展開。
有機・高分子光電子材料	下村武史	フレキシブルな分子エレクトロニクス実現をめざした機能性高分子材料の研究：①導電性高分子ナノファイバーなどのナノ構造体の創製と分子スケールでの機能評価、②低次元性や柔軟性を利用したポリマーエネルギーデバイスの開発と機能評価、③自己組織性をもったソフトデバイスの開発と機能評価。
有機・高分子素材化学	岡本昭子 ^{※1}	分子の空間的構造の精密な把握に基づく有機構造材料の開発：芳香環が非共平面的に集積して構築される分子性化合物の、①結晶中での分子構造（一分子を取り出したときの分子内の原子の空間配置）とその集合体の空間配置、溶液中での分子構造の変化挙動の解析、②モノマーへの変換と縮合系ポリマーへの組み込みに関する合成研究。
バイオ高分子材料	村上義彦	医用高分子材料（バイオマテリアル）や機能性有機材料の開発。特に、次世代医療のための外科手術用組織接着材料、血管内手術用ゲル、薬物放出性マトリックス、遺伝子診断用ポリマー、がん特異的イメージング剤、バイオ分析用高分子膜などの開発。
	村岡貴博	有機合成化学と超分子科学に基づいた、生体に関連した機能性有機分子の開発と応用。特に、①タンパク質を安定化・機能操作する分子の開発、②細胞膜などの脂質二分子膜の構造・物性を制御する分子の開発、③細胞活動を操作する分子の開発。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
有機・高分子物理化学	渡邊 敏行	①二酸化炭素を原料とするナノダイヤモンド、②光照射により繊毛運動やぜん動運動・拍動するポリマー材料、③外部刺激により蛍光のOn-Offを自在に制御できる有機材料、④ドラッグデリバリーシステムや再生医療に有用な高分子材料等の機能性材料の開発。
有機・高分子物性化学	中野 幸司	有機合成化学を基盤とする有機機能性材料の創製。特に、①新しい π 共役化合物の設計・合成、および有機エレクトロニクス材料・有機オプトエレクトロニクス材料としての機能評価と応用、②高活性・高選択性の発現を目指した新規重合触媒の開発、およびその触媒をもちいた機能性高分子材料の開発。
	※1 帯刀 陽子	エレクトロニクスデバイス作製のための新規機能性有機材料の開発。 ①特異な電気・磁気特性を発現する機能性材料の合成、②機能性材料からなる分子集合体の作製、③電気・磁気物性などの有機電子デバイス特性の評価。
超分子・分子集積材料	※1 兼橋 真二	持続可能社会の実現に貢献する新規な環境機能材料の創製。高分子科学、物質移動、環境科学に立脚した未利用バイオマス由来の機能性マテリアル、温室効果ガス回収、クリーンエネルギー水素精製、天然ガス・バイオガス濃縮用の分離膜素材、フードロス対策となるガスバリア材料およびそのハイブリッド材料に関する研究。
有機材料数理	※1 合田 洋	デーン手術、ヘガード分解、葉層構造、接触構造などの幾何学的手法を用いる三次元多様体およびその中の結び目の解明。
有機・高分子材料開発	斎藤 拓 *2027.3退職予定	ポリマーブレンド法による有機材料の高次構造制御と高性能材料設計。超臨界流体を利用した複合材料や微多孔膜の創製とグリーンケミストリー。応力・複屈折同時測定法による光学物性の評価や新規光学材料の設計。結晶化や分子運動など、高分子物性の基礎科学。

化学物理工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
異相界面工学	滝山博志	医薬品、食品などで多用されている結晶性物質を生産するための手法、すなわち晶析操作に関する研究開発。より高品質な医薬品結晶、より高性能な機能性結晶を対象として、その製造手法を研究する。また電池材料の前駆体結晶など、エネルギー関連物質なども研究対象としている。
	長津雄一郎	化学液体力学研究（気体は有せず液体特有な性質に着目した化学反応を伴う流体力学研究）の推進・深化とそのエネルギー分野への社会実装への展開。特に化学反応を伴う液体界面流動の学理構築とその石油増進回収技術への応用に取り組んでいる。
微粒子工学	Wuled Lenggoro	化学プロセス工学、微粒子・エアロゾル工学、移動現象論（質量・流体・熱）およびバイオシステムの異分野横断研究を推進し、食料生産や水供給システム、生態系保護に貢献する。「マイクロ」から地球環境を含む「マクロ」な物質・エネルギー移動まで考える。
環境バイオエンジニアリング	寺田昭彦	自然環境中の有用な微生物群を制御・活用した水・土壌環境の浄化に関する研究、および微生物の高度集合体であるバイオフィルムの制御・抑制に関する研究。具体的には、難生分解性有機化合物・窒素・リン除去を志向したバイオリアクターシステムの開発、ファウリングを抑制するろ過膜や抗菌材料の開発など。
	利谷翔平 ^{※1}	未利用廃棄物の再生可能エネルギー、肥料・土壌改良材などへの変換に関する研究を行う。具体的には湿式・乾式メタン発酵による下水汚泥や農畜産廃棄物の処理やその残渣の利用に関する研究。廃棄物由来肥料を投入した土壌における温室効果ガス生成・栄養塩挙動の解明や削減法に関する研究など。
光電子材料工学	清水大雅	半導体、磁性体、高分子、バイオ材料など異種材料一体集積と高効率光変調、高感度センサに関する研究を行う。高感度センサを他の分野に応用し、学際的な研究を行う。
	Satria ^{※1} Zulkarnaen Bisri	溶液処理可能な量子ナノ材料（コロイド状量子ドット、二次元ナノ材料、カーボンナノチューブなど）を用いた光電子・エネルギーデバイス、および光検出器、トランジスタ、太陽電池、スーパーキャパシタ、発光デバイスなどのイオンエレクトロニクス（イオン制御型電子機器）の開発。ナノ材料の精密な集集体制御に起因する新たな物理現象の研究。環境に優しく持続可能なコロイド量子ドット化合物の発見。
原子過程工学	畠山温	レーザー分光、レーザースピン偏極、レーザー冷却をベースとした原子・分子・光物理学の実験的研究。特に、原子-表面相互作用の基礎研究と、それに基づく原子の精密計測や量子制御への応用研究を行う。
反応工学	伏見千尋	炭素系資源の熱分解・ガス化・水熱液化反応器の研究開発。再生可能エネルギーを組込んだ火力発電とバイオマス発電の高付加価値化。バイオマスからの化学品生産プロセスの開発。流動層装置の流動と反応解析。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
物質分離工学	桜井 誠	マイクロ化学プロセスへの応用に向けた構造体触媒の高機能化、環境分野へのファインバブルプロセスの応用、化学プロセスの高効率化に向けた非定常操作、熱化学サイクルによる新規高効率エネルギー変換プロセスの設計等、新しい反応場や反応プロセスの創出や設計に関する研究。
	徳山 英昭	機能性高分子（ソフトマテリアル）材料の開発と材料の製造プロセスおよび材料を利用する工業・環境・エネルギープロセスに関する研究。具体的には、分離材、触媒材料などの開発、および微粒子や多孔質など構造制御技術の構築。
プロセスシステム工学	大橋 秀伯 ^{※1}	近年の機能分子産生デバイスや省エネ技術のためには、分子移動現象にかかわる知見が欠かせない。機能性分子の移動物性取得・解析手法の開発を通じて、リチウムイオン電池用材料の開発、タンパク質の連続リフォールディング技術、化学的グラフト手法など、エネルギー分野・ライフサイエンス分野の先進技術開発に取り組む。
	山下 善之 *2025.3 退職予定	安全・安心かつ効率的なプラントの運転操作をめざした高信頼性運転制御系の設計および実現手法の開発。データリッチ環境におけるプラントの知的運転支援システムの構築手法に関する研究。プロセスシステムの高度シミュレーションと最適化に関する研究。化学プラントのスマート化に関する研究。
有機電子工学	金 尚弘 ^{※1}	プロセスデータ解析、プロセスモデリング、プロセス制御などの技術開発および応用を行っている。化学、半導体、医薬品など幅広いプロセスを対象として、異常検出、歩留まり改善、制御性能改善などを実現することを目的としている。
	嘉治 寿彦 ^{※1}	有機材料の電子物性・光物性に関する実験的研究。特に有機材料を半導体に用いた電子素子や太陽電池の研究と、そのための薄膜成長や結晶性、ナノ構造の制御の研究。
量子電子工学	宮地 悟代	フェムト秒（ 10^{-15} 秒,fs）時間領域まで圧縮した高密度光エネルギーを物質に付与し、その特徴的な光応答を新たな応用へと結びつけるための研究、特に、ナノ物質制御に関する研究を行う。
量子ビーム工学	箕田 弘喜	生体高分子をはじめ様々なナノスケール材料が、ガス雰囲気下や溶液中などの実環境下で発現する機能と構造との関係を明らかにする。そのために、実環境でのナノ構造の高精度観察を可能にする電子顕微鏡装置や電子顕微鏡法の開発を行う。

機械システム工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
流体力学	亀田 正治	混相流体力学及び高速流体力学。特に気泡を含む流体の流動解析、高速飛行体周りの流動解析。流れの可視化、計測法、数値シミュレーション。
	田川 義之	マイクロ流体力学。特に混相流体现象を利用した超音速マイクロジェットについての実験的研究。医療器械、マイクロデバイスへの応用。液滴のダイナミクス。
機械材料学	小笠原 俊夫	航空機、宇宙輸送システム、自動車、ロボットなどへの適用を目指した先進複合材料および複合材構造に対する実験的・解析的研究。炭素繊維複合材料、カーボンナノチューブ複合材料、セラミック系超耐熱複合材料などの材料開発。複合材料の破壊・損傷の評価。力学的・熱的モデルの構築と数値解析。
	山中 晃徳	フェーズフィールド法を基幹技術とした金属材料のマイクロ組織形成と弾塑性変形挙動のマルチスケールシミュレーションおよび実験的研究。
材料力学	※1 高田 智史	粉体物理学および粉体工学。特に粒子シミュレーションや連続体モデリングなどを用いた粉粒体の外力応答の解析。
弾塑性解析	中本 圭一	多軸制御工作機械や複合加工機のためのCAM開発（工程設計・工具経路生成）、次世代工作機械の自律化・知能化技術、超精密マイクロ・ナノ切削による金型加工、技能やノウハウのデジタル化による柔軟物・超複雑形状の巧妙加工、アナログモデルを迅速に再現するリバーシブルエンジニアリング。
機械要素解析	安藤 泰久	マイクロトライボロジー。フォトリソグラフィや機械加工、ビーム加工などを利用したMEMSや機能性表面の開発。計測技術、摩擦制御技術などへの応用。
	※1 木村 笑	生体分子を主成分とするナノ粒子を、マイクロ流体操作技術を駆使し、物理特性を制御して作製する。また作製粒子を用いて、細胞動態や生体内機能へ与える影響を、粒子物性を基軸に生物界横断的に評価することで、複雑な細胞機能の解明や新規治療法への応用を目指す。
機械システム設計	※1 鎌田 崇義	アクティブ振動制御、スマート構造、ヘルスマニタリング、耐震技術、免震・制振、車両応答解析、エレベータ技術。
	※1 倉科 佑太	機械力学とソフトマターを用いたソフトロボティクスに関する研究。ドラッグデリバリーシステム（薬剤徐放機構の開発）や再生医療（細胞組織の形成）、創薬モダリティ（各臓器に適した薬剤キャリアの設計）への応用を目的としたハイドロゲルのマイクロ・ナノデバイスと超音波による非接触アクチュエーションの研究など。
熱流体システム設計	村田 章	ガスタービン関連熱・流体問題。乱流熱伝達の数値シミュレーション、流れの可視化、相変化を利用した熱輸送デバイス。
	岩本 薫	省エネルギー・環境負荷軽減を目的として、熱・流体の高度制御技術を創成する。自在な乱流制御（航空機などの摩擦抵抗低減）、材料工学における制御（高品質結晶生成プロセスにおける対流制御）、生体工学における制御（人工心臓などの脈動最適化）、化学工学における制御（化石燃料に依存しない水素の高効率製造）など。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
車両システム工学	※1 堀 琢 磨	伝熱工学に関する研究。具体的には、エネルギーデバイスにおける熱・物質輸送、ナノ材料の熱伝導、構造最適化、粗子化・マルチスケールシミュレーション、界面および分子スケールの熱流体力学など。
	上 田 祐 樹	音響振動を利用したエンジンや冷凍機。振動流を用いたエネルギーの輸送や物質輸送を研究し、それらを利用した排熱発電や環境親和型冷凍機の開発、および新しいデバイスの提案。
	ボンサトーン・ ラクシンチャ ラーンサク	安全安心な自動車交通システムのための人・車・道路の統合センシングとアクティブ制御技術を中心とした研究開発。個人移動手段パーソナルモビリティ、自動車の運動性能向上技術、ドライバモデルと運転行動予測、ナビゲーション・マシンビジョン等を利用した先進運転支援システム。
	※1 前 田 孝 雄	宇宙探査ロボティクス・メカトロニクスに関する研究を実施。月や火星、小惑星で活動する探査ロボット（ローバ）に必要な技術に関して、走行力学、自律機能や、探査システムの面で研究している。探査システムの要素から、システム全体に及ぶ範囲を対象としている。また、探査計画の立案も行う。ハードウェアを用いた実験とシミュレーションとを相補的に用いて、将来の宇宙探査技術の創出と、それらの応用技術の普及を目指す。
メカノビジネス	夏 恒 *2025.3 退職予定	電解加工、放電加工、砥粒加工等による形状創成に関する環境対応型生産加工の研究開発。電解加工における現象解明と応用技術、加工シミュレーション技術の研究開発。電解複合研磨による難加工材の形状創成。微細深穴の放電加工に関する研究。
制 御 シ ス テ ム	田 川 泰 敬 *2025.3 退職予定	機械システムのモデリングと制御技術をコアに、新しいデバイスの研究開発を行う。具体的には、1) 次世代型振動試験システム、2) 先端モーション・シミュレータ、3) 人間機械協調型パワーアシストシステム、などに関して基礎からデバイスの開発までを手がけている。また、伝達関数法による制御系設計手法の研究も行う。
	※1 有 泉 亮	ロボットに代表される動的システムの動きのデザインに関する研究を実施する。力学や制御工学、機械学習を基礎とし、物理的な性質とデータの両方を適切に利用しながら「頭のいい」動きをデザインするための方法論の提案を目指す。
生産システム工学	笹 原 弘 之	切削・研削加工を中心とした新加工技術開発（ロータリ切断、振動切削、航空宇宙材料の加工など）、熔融金属積層によるアディティブ・マニュファクチャリング、環境にやさしい加工、機械加工のシミュレーション、摩擦攪拌パニングによる金属表面改質、機械加工面のサーフェスインテグリティ。
精 密 計 測 工 学	花 崎 逸 雄	ナノ・マイクロ系をはじめとする対象に現れる四力（固体力学、流体力学、熱力学、機械力学）の融合・境界領域において、それらを横断的に捉える統計力学と力学系の理論的な切り口から物理現象の解明・予測・設計を行う。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
機械解析代数学	直井克之 ^{※1}	無限次元リー代数およびその q 変形の表現論
機械解析幾何学	中園信孝 ^{※1}	可積分系とよばれる綺麗な性質を持った差分方程式についての研究を行う。(キーワード: パンルヴェ方程式、ソリトン方程式、戸田格子)
宇宙工学	西田浩之	先進的宇宙推進システム、宇宙往還機に関わる空気力学・飛行力学についての研究、具体的には、宇宙プラズマを利用した推進システムの数値流体シミュレーション、大迎角飛行中の宇宙往還機についての風洞実験、大気圧プラズマを用いた流体制御デバイスのシミュレーション・実験、など。
人間行動システム学	田中秀幸 (協力教員) ※共同大学院で受け入れ	人間の知覚・認知・行動システム、身体運動学、運動学習、運動解析。
	横山光	ヒトの運動の神経筋制御、運動制御、ブレインマシンインターフェース、リハビリテーション工学。

知能情報システム工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
基礎電子工学	張 亜	半導体量子ナノ構造やナノメカニカル構造の新規な物理現象やダイナミクスを解明し、単電子トランジスタ、量子情報処理デバイス、超高感度テラヘルツセンサーなど、次世代エレクトロニクスの開拓に向けた基礎物理とデバイス応用の研究を行う。
パワーエレクトロニクス	鄧 明 聡	AIによるシステムの安全制御、故障診断および故障耐性制御、スマート材料によるアクチュエータとマイクロハンドなどの非線形制御に関する研究。
電子デバイス工学	白 檉 淳 一	量子計算機を利用した組み合わせ最適化手法による量子実験系での実験パラメータ探索と原子接合の作製、量子計算機を模擬したイジング計算機の実現と応用、脳のシナプスを模倣したニューロモルフィックデバイスの開発。
	久 保 若 奈	光制御を実現するプラズモニック・メタマテリアルを利用し、光電変換デバイスや光機能性素子を開発する研究を行う。ナノテクノロジー技術を駆使した無機ナノ構造体の作製、太陽電池や光学素子などの設計と評価を行う。
電子機能集積工学	上 野 智 雄	新材料・新プロセス技術の構築を中心とした、次世代超高集積デバイス基盤技術に関する研究。ラジカルを用いた薄膜低温形成、有機EL材料を用いた光電子デバイスの開発など。
通信システム工学	梅 林 健 太	無線通信ネットワーク、高効率・高信頼な無線通信のための信号処理・リソース制御、複数アンテナを用いた無線通信用高度信号処理、コグニティブ無線技術、物理レイヤセキュリティ、テラヘルツ・ナノデバイス用無線通信の研究開発。
	鈴 木 健 仁	テラヘルツ波帯アンテナ、テラヘルツ光極限物質、テラヘルツメタマテリアル、超高感度テラヘルツ偏光計測、テラヘルツ波超高速無線通信システム、テラヘルツ応用システムの研究。
医用情報工学	清 水 昭 伸	多次元信号処理、人工知能、最適化理論、数理統計に基づく医用画像処理、パターン認識に関する研究。また、これらの研究成果を応用した医用画像の診断支援システムの開発と評価。
	瀧 山 健 ※1	運動学習・運動制御の脳内メカニズムの解明と、運動能力が向上するための効果的なトレーニング方法の提案。脳を模擬した数理モデルの構築、ヒトを対象とした行動実験を主な研究手法とし、脳波計を用いた脳活動計測や機械学習も今後研究手法として取り入れていく。
画像情報工学	田 中 聡 久	生体信号情報学（信号処理・機械学習・数理工学に基づくブレイン・マシン・インタフェース、脳神経科学、認知科学、医学のための生体情報処理、AI技術）。また、画像、音声・音響、通信、生体への応用。
	矢 田 部 浩 平	音声や音楽など、音響信号の計測・解析・処理に関する研究。音響信号処理を中心に、音に関する幅広いトピックを扱う。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
アルゴリズム工学	金子 敬一	プログラミング言語処理系の耐故障化や高速化、相互結合網の位相構造の設計や経路選択算法の開発、プログラムの部分計算および並列実行、マルチメディア教育などに関する研究。
	宮代 隆平	数理計画、離散最適化、アルゴリズム、数理工学、実社会に現れる最適化問題の数理モデリングおよび最適化。
先端基盤ソフトウェア学	並木 美太郎 *2027.3 退職予定	OS・言語処理系・ウインドウシステムなどのシステムソフトウェア、組み込みシステム、ネットワーク、WebComputing、並列分散処理、モバイル・ユビキタスコンピューティング、XML。
	山田 浩史	オペレーティングシステム、仮想化技術、並列分散処理システム、システムソフトウェアに軸足を置いたクラウドコンピューティングおよびディペンダブルコンピューティング。
人工知能工学	藤田 桂英	マルチエージェントシステム、人工知能間協調および交渉、自然言語処理、データマイニングを中心とした人工知能およびそれらの社会応用に関する研究。
	渡辺 ※1 峻	情報理論の観点による情報通信や情報セキュリティ技術に関する理論的な研究
コンピュータシステム工学	中山 ※1 悠	モバイル、IoT、空間情報など、情報ネットワークとアプリケーションに関する技術および、それらを活用する仕組みに関する研究。
	岩崎 裕江	SDGsの達成に向けた働く場所にこだわらないロケフリーを実現するためのAI処理や映像符号化処理を実現可能な映像処理プロセッシングアーキテクチャの研究開発。
システム情報学	斎藤 隆文 *2025.3 退職予定	コンピュータグラフィックス、可視化、映像処理、形状処理に関する研究。特に、情報提示のための画像生成処理、美的な曲線・曲面形状の生成制御など。
	早川 ※1 諒	信号やデータの復元・加工を行うための信号処理の数理と応用に関する研究。連続最適化に基づく信号処理、データ駆動型信号処理、および画像処理・通信工学などへの応用。
認識制御工学	近藤 敏之	生物の環境認知・適応・運動学習メカニズムの構成論的解明とその工学的応用に関する研究。自律分散システム、ロボティクス、ブレインコンピュータ・インタフェース、リハビリ医工学。
	清水 郁子	コンピュータビジョン、ロボットビジョン、3次元画像処理、画像処理技術を応用した情報支援システムなどに関する研究。
情報ネットワーク工学	山井 成良 *2027.3 退職予定	インターネットアーキテクチャ、ネットワークセキュリティなど、インターネットを含む大規模（分散）システムの構成・管理・運用・評価に必要な技術の研究。
	中條 拓伯 *2027.3 退職予定	計算機アーキテクチャ、並列処理、高性能プロセッサ、LSI設計、システム設計、ハイパフォーマンスコンピューティング。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
仮想環境創造工学	藤田 欣也 *2026.3 退職予定	オフィス作業者の集中度推定、テレワーク支援、スマートな情報提供システム、手指を用いたVR作業など、ヒューマンインタフェースやバーチャルリアリティに関する研究。
自然言語情報学	※1 宇野 良子	自然言語のダイナミズムの認知言語学的分析（時制・様相・新造語・擬態語等）と、人工言語を用いた進化言語学的実験を通じた、文法による視点追跡・共有の機構の研究。
数理情報学	※1 原 伸生 *2027.3 退職予定 ※1 村田 実貴生	正標数の代数幾何学と可換代数。とくに、正標数に固有のフロベニウス射の振る舞いを用いた代数多様体とその特異点の研究。 微分方程式の離散化と超離散化およびその解析。超離散化の手法による可積分セル・オートマトンの研究。パンルヴェ方程式とその拡張の研究。

工学府連携分野

本学工学府に、優れた研究実績を有する外部の研究所等との連携により大学院教育の活性化を図ることを目的として設置された教育研究分野である。連携分野を志望する者は、事前に各専攻長の指示を受けること。

専攻	教育研究分野	担当教員	教育研究内容
生命工学専攻	ナノ細胞工学 (連携研究機関：国立研究開発法人産業技術総合研究所)	中村 史 ^{※1} 金 賢 徹 ^{※1} 山 岸 彩 奈	微細加工技術により作製した新規ナノ・マイクロ材料やナノプローブ計測技術を駆使し、生きた細胞を解析・操作する「ナノ細胞工学」という新しい科学技術体系の確立を目指す。開発した技術によりがん細胞や免疫細胞、iPS細胞等の機能を解明し、その情報を元にゲノム治療、リキッドバイオプシー等の技術開発に取り組み医工学技術の発展に貢献する。これら最先端の研究開発を通じて生命科学に関する教育研究を行う。
化学物理工学専攻	非平衡プロセス工学 (連携研究機関：(株)三菱ケミカルホールディングス)	垣内 博 行 ^{※1} 野 口 直 樹 ^{※1} 日 高 秀 人 ^{※1}	現在行われている工業的な化学製品の製造方法は、ほとんどは、一定の運転条件下で連続的に行われている。これに対して、最近、運転条件の変動する、いわゆる「非平衡プロセス」を用いた製造が行われるようになってきた。このような背景を踏まえ、非定常・非平衡な製造方法の理論と実際について教育研究を行う。
機械システム工学専攻	交通輸送システム工学 (連携研究機関：(公財)鉄道総合技術研究所)	高 見 創 ^{※1} 半 田 和 行 ^{※1} 秋 山 裕 喜 ^{※1}	次世代の高速鉄道を開発するために、高速化に対応した車体設計法、軽量化技術、安全性の向上技術を中心とした高度な解析手法や設計手法について教育研究を行う。さらには交通輸送システムとしての社会的な諸問題の解析評価について教育研究を行う。
	宇宙航空工学 (連携研究機関：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)	山 根 敬 ^{※1} 青 山 剛 史 ^{※1} 渡 辺 安 ^{※1} 平 野 義 鎮 ^{※1} 大 北 洋 治 ^{※1}	航空機、宇宙機開発にかかわる航空推進工学、高速空気力学、空力/空力音響学及び回転翼、複合材料・構造工学の研究を行う。航空推進工学では、航空エンジンシステムシミュレーション技術、高温タービンの耐熱・冷却技術に関する研究を行う。高速空気力学では、超音速、極超音速流れ、特に、エンジンインテーク、極超音速境界層の制御法に関する研究を行う。空力/空力音響学及び回転翼では、航空機の非定常CFD、AI等による空力現象のモデル化、ヘリコプタやeVTOLに関する研究を行う。複合材料・構造工学では航空宇宙機の複合材料・構造の損傷、最適設計に関する研究を行う。
	交通安全工学 (連携研究機関：(独)自動車技術総合機構、交通安全環境研究所)	関 根 道 昭 ^{※1}	主に道路交通の安全を高め、より安心な社会環境基盤を構築し、車両の安全を保証・検証・審査する、という公共性の高い事業が展開されている連携先において、本学における共生科学技術の基盤的研究を高度福祉社会の発展のために応用することを目指した教育研究を推進する。
	人・ロボット協調工学 (連携研究機関：国立研究開発法人産業技術総合研究所)	鮎 澤 光 ^{※1} 山 野 辺 夏 樹 ^{※1} 佐 川 立 昌 ^{※1}	人行動のモデリングや、ロボットへの動作リターゲティング、機械学習に基づいた動作生成による、ロボットとの共同作業やコミュニケーションの実現のための人とロボットの協調の研究。

専攻	教育研究分野	担当教員	教育研究内容
機械システム工学専攻	自動車予防安全工学 (連携研究機関：(一財)日本自動車研究所)	内田 信行 ^{※1} 今長 久 ^{※1}	自動車交通事故は、人的要因・道路環境要因・車両性能要因など、複数の要因が関与して発生する。そのため、交通事故を防ぐためには、要因間連鎖の特徴を明らかにし、事故発生メカニズムに基づく予防安全対策が必要である。事故背景要因把握のためのドライブレコーダデータ収集および分析の手法、事故発生メカニズム仮説を検証するための実験等について、特にヒューマンエラー対策を主眼とした研究を推進する。
知能情報システム工学専攻	先端電子情報システム工学 (連携研究機関：(株)日立製作所中央研究所)	安藤 正彦 ^{※1} 李 英根 ^{※1}	情報技術の高度化に応えるため、演算・記録・伝達の全ての面で絶えざる革新が求められている。その課題は、量的な面(高速化・大容量化・低消費電力化・低雑音化)と質的な面(知能化・複合化・システム化・外部適合化)に分けられる。これらを同時に解くキーテクノロジーとして、寸法がナノメートルの系を対象とした技術が非常に重要になってきた。このような背景を踏まえ、微細系を対象とした情報解析技術や、情報機能制御などの教育研究を行う。
	情報通信工学 (連携研究機関：国立研究開発法人情報通信研究機構)	辻 宏之 ^{※1} 渡辺 聡一 ^{※1} 広瀬 信光 ^{※1}	次世代の情報通信の幅広い応用分野及びそのキーテクノロジーを支えるために、ワイヤレス通信用高周波デバイス、通信方式、通信環境および電磁波計測技術などの基盤研究に関する教育研究を行う。
	バイオメディカルエレクトロニクス (連携研究機関：国立研究開発法人理化学研究所)	横田 秀夫 ^{※1} 吉澤 信 ^{※1} 村山 正宜 ^{※1}	生体医工学にかかわる電子工学(計測、信号処理、インタフェース、イメージング、シミュレーション、メカトロニクス等)に関する教育研究をおこなう。
	革新知能基盤 (連携研究機関：国立研究開発法人理化学研究所)	大武 美保子 ^{※1} Qibin Zhao ^{※1} 荒井 ひろみ ^{※1}	知能情報工学、人工知能に関する基礎研究、応用研究(離散最適化、探索と並列計算、テンソル学習、近似ベイズ推論、認知行動支援技術)に関する研究教育を実施する。
	都市空間情報学 (連携研究機関：国立研究開発法人産業技術総合研究所)	幸島 明男 ^{※1} 赤坂 文弥 ^{※1} 中嶋 香奈子 ^{※1}	センサー情報解析、機械学習、社会シミュレーションの数理解析、サービス設計と社会実装などに関する研究。 都市空間と人のセンシングにより得られる情報を、対象のモデルを用いた機械学習により解析・理解し、また実センサーデータを用いた社会シミュレーションによる可能世界の探索を実行することによって、都市空間における「都市の利便性・安全性」と「人の快適さと安心」を実現する都市空間における情報学の研究を行う。
	知能データ工学 (連携研究機関：(株)日立製作所中央研究所)	守屋 俊夫 ^{※1}	Internet-of-Things (IoT) 技術により日々収録されるビッグデータを知的に活用するための人工知能技術に関する教育研究を行う。

専攻	教育研究分野	担当教員	教育研究内容
生命工学専攻	<p>海洋生物環境科学 (連携研究機関:国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC))</p>	土屋正史	<p>深海等の海洋環境における人為起源汚染物質の動態と環境・生物への影響、海洋生物の分子生態学等の内容について教育研究をおこなう。</p>

{2024年度10月} 入学 (該当を○で囲む)
{2025年度4月}

東京農工大学大学院工学府 (博士後期課程)

入学志願票

志望専攻	専攻	志望分野	受験番号	※ DC -	
志望する指導教員名	㊞		希望する研究題目		
ふりがな			男・女	勤務先又は 在籍大学名	
氏名				本籍 (又は国籍)	都・道・府・県 (外国人は国籍)
生年月日	年	月	日生		
現住所	(〒 -) (様方)				
	自宅電話 () -		e-mail		
連絡場所	(〒 -) (様方)				
	電話 () -		自宅・呼出 ()		
履 歴 書	学歴 (高等学校又は 高等専門学校卒業から記入すること。)	年月(西暦)	事項		
	職歴 (大学等研究生等としての在学歴がある場合は、本欄に記入すること。)				
	備考 (賞罰、休学期間等を記載)				
私費・国費留学の別 (外国人のみ記入)		私費・日本政府国費・外国政府派遣		出願資格区分	※

注1. ※欄には記入しないこと。 注2. 黒又は青のボールペンで記入すること。
注3. 志望する指導教員の捺印(承認印)が無い場合は出願不可。
注4. 国際専修を志望するものは、志望分野欄に「国際専修」と記載すること。

{2024年度10月}
{2025年度4月}入学

(該当を○で囲む)

東京農工大学大学院工学府
(博士後期課程)

写 真 票

写真貼付欄 写真は、上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもの (4cm×3cm)	
志望専攻	専攻
ふりがな	氏名
生年月日	年 月 日生 男・女

{2024年度10月} {2025年度4月}入学 (該当を○で囲む) 東京農工大学大学院工学府 (博士後期課程) 受 験 票	
志望専攻	専攻
ふりがな	氏名
生年月日	年 月 日生 男・女
(注 意) 1. 本票は、学力試験の際に机の上に置いて監督者に見えるようにすること。 2. 本票は合格者発表の際に必要なので、受験後も大切に保管しておくこと。 3. ※印欄は記入しないこと。	

切りはなさないこと

出欠確認※	出席・欠席
-------	-------

注1. ※印欄は記入しないこと。

注2. 黒又は青のボールペンで記入すること。

【在学中の者は提出不要】
※詳しくはP3. 選抜方法 E 参照

修士論文の概要

受験番号	※ DC -	志望専攻	専攻	氏名	
修士論文題目					
修士論文の概要					

注) 修士修了者は修士論文の概要を、本様式に2,000字(英語の場合は500単語)以内に具体的、かつ簡明に作成すること。
なお、その際に、必要に応じて図、表、式等を用いても良い。また、ワープロソフト使用のときは本様式に直接または別紙用紙(A4判)に本様式にならない作成すること。
※印の欄には、記入しないこと。
黒又は青のボールペンで記入すること。

研 究 計 画 の 概 要

受験番号	※ DC -	志望専攻	専攻	氏名	
研究（希望）課題					
研究（希望）計画の概要					

注) 本様式に2,000字以内に具体的、かつ簡明に作成すること。なお、ワープロソフト使用のときは本様式に直接または別紙用紙（A4判）に本様式にならない作成すること。なお、社会人にとっては、希望する研究実施形態についても記載すること。
※印は、記入しないこと。

【本学出身者、本学在学者は不要】
(入学資格審査申請者は申請時に提出)

志 望 理 由 書

志 望 専 攻	専 攻	氏 名	受験番号	※ DC -
			受付番号	※

※の欄は、記入不要。字数は1,000字程度。本様式をワープロソフトで作成可。

別紙様式 (1)

出願資格認定結果 ※ 合・不合

※
認定審査責任者氏名 _____ ㊞

2024年度10月入学・2025年度4月入学
東京農工大学大学院工学府博士後期課程入学試験出願資格認定申請書

志望専攻	専攻			受験番号	※ DC -
ふりがな 氏名				男・女	写真貼付欄 写真は上半身脱帽正 面向きで3ヶ月以内 に撮影したもの (4 cm × 3 cm)
生年月日 (年齢)	年 月 日 (歳)	現職			
現住所	TEL () - e-mail				
学 歴					
年 月 日	事 項				
職 歴 (研究・開発等の業務内容がわかるように詳しく記入して下さい)					
年 月 日	事 項				
学会及び社会における活動状況					
年 月 日	事 項				

(注) ワードプロソフト使用のときは本様式に直接または別紙用紙 (A4判) に本様式にならない作成すること。
※印の欄には、記入しないこと。

研 究 業 績 一 覧

氏名 _____

志望専攻	専 攻			受験番号	※ DC -
学術論文、研究発表、報告、特許等の名称	発行又は 発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	備考（共著者又は 共同発表者名）		

注) 年代順に記載のこと。学術論文等は、別刷又は写を添付すること。なお、ワープロソフト使用のときは本様式に直接または別紙用紙（A4判）に本様式にならない作成すること。
※印の欄には、記入しないこと。

年 月 日

東京農工大学大学院工学府長 殿

入 学 承 諾 書

住 所

勤 務 先

役 職 名

氏 名

⑩

このたび、下記の者が貴大学大学院工学府博士後期課程に在職のまま入学することを承諾します。

入学者氏名 _____

入学検定料納付確認票

志望専攻	専攻
受験番号	※ DC -

(志望専攻は本人が記入すること)

「振替払込受付証明書
〔大学提出用〕」を貼り付
けること。

(注意)

1. 郵便局・ゆうちょ銀行の受付
局日附印がないものは無効。
2. 振替払込受付証明書の所定欄
に志願者住所・氏名を必ず記
入のこと。
3. 振替払込請求書兼受領証は大
切に保管し、ここに添付しな
いこと。
4. 納入された入学検定料は、い
かなる理由があっても払い戻
さない。

入学検定料払込用紙〔工学府(博士後期課程)用〕

- ・本払込用紙に、志願者(ご依頼人)の住所・氏名(フリガナ)を記入のうえ、支払期限までに郵便局・ゆうちょ銀行窓口でお支払いください。
- ・右端の「振替払込受付証明書」を、入学検定料納付確認票に貼り付けて提出してください。(受付局日附印のないものは無効)
- ・「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。
- ・本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要となります。

切り取ってご使用ください

払込取扱票

00	口座記号番号										金額	千	百	十	万	千	百	十	円		
0	0	1	2	0	8	4	6	3	4	2	6	※			3	0	0	0	0		
加入者名	国立大学法人 東京農工大学										料金										備考
通信欄	※ 入学検定料 東京農工大学大学院 工学府 (博士後期課程) 必ず窓口で払い込み、ATM(現金自動預払機)は利用しないでください。 ※本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要となります。																				
ご依頼人	志願者住所(郵便番号) _____ ※ 志願者氏名(フリガナ) _____ (電話番号 - -) _____ 様										日附印										

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号東第44194号)
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	0	1	2	0	8	4	6	3	4	2	6				
加入者名	国立大学法人 東京農工大学															
金額	千	百	十	万	千	百	十	円	※			3	0	0	0	0
ご依頼人	志願者氏名(フリガナ) _____ 様 ※ _____															
料金額	(消費税込み)	日附印														
備考	円															

記載事項を訂正した場合はその箇所に訂正印を押してください
切り取らないでお出しく下さい

この受領証は、大切に保管してください。

振替払込受付証明書(お客さま用) (ご依頼人⇨郵便局・ゆうちょ銀行⇨ご依頼人) 〔大学提出用〕

口座記号番号	00120-8-463426															
加入者名	国立大学法人 東京農工大学															
金額	千	百	十	万	千	百	十	円	※			3	0	0	0	0
ご依頼人住所氏名	※(志願者住所氏名)															
日附印	_____															
入学検定料工学府(博士後期課程)	_____															
日附印のないものは無効	_____															

切り取らないでお出しく下さい

(承認番号東証第1247号)

〔工学府(博士後期課程)用〕

① 入学検定料は、必ずこの払込用紙を使用して郵便局・ゆうちょ銀行で払い込んでください。

② 払込の際に日附印を押印した「振替払込受付証明書」を受け取り、入学検定料納付確認票の指定欄に貼り付けて提出してください。

(注意)

志願者住所、氏名欄に記入漏れがないか、郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が漏れていないか、確認の上提出してください。

(記入漏れ、日附印のないものは無効となります。)

(ご注意)

・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。

・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。

・この用紙による、払込料金は、ご依頼様が負担することとなります。

・ご依頼様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。

・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
3万円以上
貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

宛名票

宛 名 票

志望専攻

□	□	□	-	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---

住所

様

受験番号	※ DC -
------	--------

□	□	□	-	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---

住所

様

受験番号	※ DC -
------	--------

□	□	□	-	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---

住所

様

受験番号	※ DC -
------	--------

- ・志望専攻を記入し、郵便番号、住所及び氏名を3ヶ所に記入すること。
- ・住所及び氏名は正確に記入すること。また、出願後、住所を変更した場合は、すみやかに届け出ること。
- ・※印欄は記入しないこと。

合格通知用

ここからきりはなして提出すること

入学手続書類送付用

予備用